

授業科目 疫学

【担当教員名】 遠藤 和男	対象学年	2	対象学科	看護	
	開講時期	後期	必修選択	必修	
	単位数	2	時間数	30	
【カリキュラムポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	◎	○	○	○	
【概要・一般目標：G10】					
<p><概要></p> <p>地域看護学またその実践である地域保健活動にとって、根本的な理論が「疫学」であり、いわば原理と方法論である。それに対して3年次に学ぶ保健統計学は、ある意味で道具である。この両者によって現在医療の現場で重視されている、EBM(Evidence-based Medicine)の基礎について修得が可能なのである。</p> <p><一般目標：G10></p> <p>証拠に基づいた医療であるEBM(Evidence-based Medicine)を用いたチーム医療に参加するために、その原理としての疫学的考え方をを用いて、各種疾病の特徴を理解する。</p>					
【行動目標：SBO】					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 証拠に基づいた医療であるEBMの重要性を説明できる。 2. 疫学研究で用いられる指標を列挙できる。 3. 各種疾病の原因を説明できる。 4. 各種疾病の予防対策を立てることができる。 5. 常に証拠に基づいて議論する習慣を身につける。 					
回数	授業計画・学習の主題		SBO番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員	
1	疫学とは、疫学の歴史		1	講義＋小テスト、担当：遠藤 和男	
2	疾患の自然史		1,2	講義＋小テスト	
3	疫学の指標		2	講義＋小テスト	
4	疫学研究を始める前に		1	講義＋小テスト	
5	生態学的研究		1,2	講義＋小テスト	
6	横断研究（断面調査）		1-5	講義＋小テスト	
7	コホート研究		1-5	講義＋小テスト	
8	症例－対照研究		1-5	講義＋小テスト	
9	介入研究		1-5	講義＋小テスト	
10	記述疫学1：環境要因		1-3	講義＋小グループ活動	
11	記述疫学2：宿主要因1		1-5	講義＋小グループ活動	
12	記述疫学3：宿主要因2		1-5	講義＋小グループ活動	
13	記述疫学4：時間		1-5	講義＋小グループ活動	
14	記述疫学5：空間		1-5	講義＋小グループ活動	
15	まとめ（国家試験問題の検討）		1-5	講義	
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		基礎からわかる看護疫学	大木秀一	医師薬出版株式会社	2010・2,800円＋税
		保健統計テキスト〔3年次にも使用〕	遠藤和男	考古堂	2008・2,800円＋税
参考書					
その他の資料		講義の際にはPptの資料を配布するので、ノート代わりとして活用のこと。 参考となるURLは学内LANにアップしておく。			
【評価方法】		【履修上の留意点】			
<ul style="list-style-type: none"> ・国家試験問題に準じる筆記テスト ・出席点も考慮する。 		<ul style="list-style-type: none"> ・後半5回のグループ討議では、健康栄養学科と看護学科混成で5-6人のグループを編制する。 ・第1～9回目の小テストは、内容ではなく出席点の確認である。 			